**マーテン・ヴァン・デル・エンデ氏M.A.D.ギャラリー写真展**

MB&F M.A.D.ギャラリーは**「グーテンベルクの再設計」**と題したスイスを拠点に活動するオランダ人写真家マーテン・ヴァン・デル・エンデ氏の美術写真展 を開催いたします。

マーテン・ヴァン・デル・エンデ氏は、「印刷の世界」をこのファンタスティックな写真展のテーマにしています。また、この写真展のタイトルは15世紀の印刷機開発の先駆者グーテンベルクへの称賛でもあります。「グーテンベルクの再設計」は印刷機械と道具の美しい数々の写真で溢れています。

このコンセプトが生まれたのは、マーテン氏がスイス、ローザンヌ近郊に位置する彼の写真スタジオ近くにある、古い商業ビルで働く芸術家や職人をテーマにしたプロジェクトに取り組んでいる時でした。ヴィラ・ペリエのチョコレート工場跡地での写真撮影に加え、彼は近隣するインクとリード博物館の印刷機も撮影しました。

*「私は本、用紙、インク、印刷機、そして印刷全般にいつも魅力を感じていました。おそらくそれは芸術家の叔父の影響です。 彼は印刷美術と芸術家の本、ポスター等の作品を専門としていて、60年代から70年代の活版印刷の作品を所有していました。それは今も昔も変わらず私を魅了し続ける世界なのです。」*と彼は言います。

*「これらのあらゆる種類の本が私の人生にとって重要な要素になっています。私はとても若い頃からずっとそれらの本を持ち続けています。そして、私はそれらの本に存在する何かをインクとリード博物館の中に見つけました。」*

マーテン氏の見事な写真は、インクテーブル、ローラー、レバーが備わった、そして中央には圧盤がある壮大な機械を紹介しています。彼は光と影を操る事で、金属の表面や時間が生み出した艶などの細部を強調して、新しい命と魂をこれらの巨大な金属の塊に吹き込んでいます。

マーテン氏にとって、こういった機械の写真を展示する事は、職人や傑作に敬意を表する一つの方法です。*「私はそれをストレートな方法で表現したいのです。ちょうど昆虫を昆虫標本ケースに飾るように。」*

*「手段と目的が大きく異なる。」*もしそうだとしても、 マーテン氏にとってMB&Fが住む時計学の世界と印刷業界の世界との平行線が失われる事はありません。*「全く異なるケースではありますが、印刷機の歯車は時計メーカーの世界を進化させました。」*彼はそう言います。

「グーテンベルクの再設計」展示会は3月21日(木)からMB&F M.A.D.ギャラリーにおいて開催されます。このシリーズは 9枚の画像(各90 x 120 cmの限定版を8枚)で構成されています。各印刷の価格は1,650スイスフランです。追加価値税が込まれています。

**略歴: マーテン・ヴァン・デル・エンデ**

マーテン・ヴァン・デル・エンデは1958年オランダのデーフェンテルに生まれる。父の仕事の都合で14歳までにジンバブエ、オランダ、フランス、スイス等4か国以上で生活を送り、1972年にスイスに定住する。

マーテンは多くの芸術世界に触れて育つ。子供時代には、父が定期的に彼を展示会に連れて行く。サン・ポール・ド・ヴァンスのマーグ財団美術館やビオのレジェ美術館に定期的に通い、アヴィニョン教皇庁のピカソ展に大きく印象付けられる。その後、マーテンはスイスのヴェヴェイにある応用芸術大学に進み、4年間の写真コースを修了する。

マーテンは写真を学ぶ傍ら、「アルル国際写真祭」に写真を定期的に出展し始める。これがきっかけとなり、すぐにヨーロッパ中がマーテンに展示会のオファーを持ちかける。1980年代の初めには*「写真には現在のような経歴も認知度もまだ無かった。」*と彼は言う*。*

これと並行して、マーテンは写真家としての宣伝のために自身に名前を付ける。そして、2001年に装った名前で最初に出会うのがマキシミラン・ブッサーである。 マーテンの作品に感動したマキシミランは、マーテンにMB&F最初の時計機器の撮影を依頼する。それ以降、マーテンが MB&Fの全時計作品の写真撮影をしている。 *「ブランドの世界を作成できる事、それに自由に取り組める事、そしてマキシミランがそのような条件を提示してくれる事は、刺激的です。」* とマーテンは言う。

マーテンの影響は彼の最初の芸術家本のエド・ルシェとクルト・シュヴィッタース、彼の同僚であるマックス・エルンスト、破れたポスターのミンモ・ロテッラ、ブラム・ヴァン・ヴェルデとサイ・ツオンブリーの絵画、ル・コルビュジエ プランズの作品にまで及ぶ。*「私はこの芸術世界に囲まれて、自分で実際に描いたり、彫ったり、コラージュを作ったりする必要性を感じています。それは写真から離れて、私の興味を統合する一つの方法なのです。」*

また、マーテンは二人の友人と「レ・エディション・ル・メカノ(Les Éditions le Mécano)」という小さな出版社を共同設立し、地域の芸術家の協力を得ながら、芸術家本や子供向けの本を中心に制作している。